

ごあいさつ

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟
会長 安道光二



新年おめでとうございます。

皆様におかれましては、良き新年をお迎えることと、謹んでお喜び申し上げます。

昨年11月、千葉市で開催された第8回アジアソフトテニス選手権大会で男子代表チームは、シングルス、ミックスダブルス、ダブルス、国別対抗で優勝し、完全制覇を成し遂げることができました。女子においてもダブルス、ミックスダブルスにて優勝することができました。ご声援いただいた多くのおみなさんのおかげであり感謝しております。

平成29年度は当連盟の5か年計画である「ソフトテニス長期基本計画2017 <夢膨らむ ソフトテニス>」の開始年となります。そのため、これから取り組む長期基本計画の施策は、「ソフトテニスの普及振興を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする」当連盟の目的をより明確にして「ソフトテニスの普及振興事業」「ソフトテニスの競技力向上事業」「ソフトテニスの国際振興事業」を3つの柱に位置づけ推進します。特に、ソフトテニスを通じて環境保全と共に自己責任やフェアプレイの精神を身につけ、マナーを重んじる等の教育を推進し青少年の健全育成を図るものとします。

この5か年計画の実現に向け本年も当連盟一丸となりソフトテニスの国内外への普及振興を図るとともに、競技力の向上に努めてまいります。

より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

第8回アジアソフトテニス選手権大会

男子国別対抗戦

監督 齊藤 広宣
コーチ 中堀 成生
トレーナー 川上 晃司
選手 水澤 悠太、長江 光一、増田 健人
船水 颯人、篠原 秀典、小林幸司

女子国別対抗戦

監督 田中 弘
コーチ 高川 経生
トレーナー 吉川 友巳奈
選手 森田 奈緒、神谷 絵梨奈、徳川 愛実
平久保 安純、中川 瑞貴、森原 可奈



<男子ダブルス>

優勝 船水 颯人・上松 俊貴
準優勝 内本 隆文・丸山 海斗
第三位 篠原 秀典・小林 幸司
水澤 悠太・長江 光一

<男子シングルス>

優勝 内本 隆文
第三位 増田 健人

<女子ダブルス>

優勝 中川 瑞貴・森原 可奈
準優勝 森田 奈緒・神谷 絵梨奈
第三位 徳川 愛実・平久保 安純

<ミックスダブルス>

優勝 船水 颯人 佐々木 聖花

ソフトテニス長期基本計画2017(2017年度～2021年度)

ソフトテニス長期基本計画2017の理念

現在の長期基本計画の理念及び主要な課題についての多くは、一定の進捗が図られ、成果を上げている。これまでのソフトテニスの課題も時代とともに変化しており、次期計画では更に我が国の愛好者の増加を図るとともに、日本で生まれたソフトテニスを世界に広め、世界各地で多くの人から愛されるスポーツとして普及振興するため、当連盟の総力を挙げ取り組むものとする。

そのため、これから取り組む長期基本計画の施策は、「ソフトテニスの普及振興を図り、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする」当連盟の目的をより明確にして「ソフトテニスの普及振興事業」「ソフトテニスの競技力向上事業」「ソフトテニスの国際振興事業」を3つの柱に位置づけ推進する。特に、ソフトテニスを通じて環境保全と共に自己責任やフェアプレイの精神を身につけ、マナーを重んじる等の教育を推進し青少年の健全育成を図るものとする。

ソフトテニス長期基本計画2017のキャッチフレーズ ＜夢膨らむ ソフトテニス＞

I. ソフトテニスの普及振興事業

＜安心・安全みんなのスポーツ ソフトテニス＞

我が国におけるソフトテニス関係者数は、中学校や高等学校在学時の経験者を含めると数百万人といわれているが、残念ながらマイナースポーツの領域から脱することはできない。2016年には45万6千人の登録者があり、他の競技と比べて遜色はない。

子供人口の減少に伴い小・中学校の生徒数も減少傾向にあるため、スポーツ競技団体では選手確保のため若年層の取り組みに神経を尖らせている。このような状況の中でソフトテニス人口を減少させることなく、組織の更なる発展を考えると、子供たちの心をキャッチすることが今後の競技団体発展に大きな影響を与えることができ、また高校生から大人世代にかけてもその心をつかむことが組織発展につながることは間違いがないと考えられる。そのため、大会を含めて各種事業展開においては、広報活動を中心としてソフトテニスの良さ、楽しさをどんどん発信し、それらの情報によるソフトテニスを楽しむ子供たちがソフトテニス活動を通して夢を描いたら最高である。夢は子供だけのものではなく、大人も子供もソフトテニスを通して心に夢を描けるように長期基本計画2017では大会を含め各種事業の推進を図ることとする。

また世界的規模で取り組まれている環境対策に加え、「教育」の視点にたった青少年の健全育成を図るため、スポーツマンとしての倫理教育と「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーン活動の推進に取り組むこととする。

1. 「ソフトテニス競技規則の制定」
2. 「全日本ソフトテニス選手権大会等開催」
3. 「地域ソフトテニス大会支援」
4. 「加盟団体が行うソフトテニスの競技力の向上と普及振興支援」
5. 「ソフトテニスの広報活動」

- (1)「ホームページの運営(ウェブサイト、携帯電話等)」、「広報誌(機関誌、会報)発行」は継続するが、「観て楽しむ、活用できるホームページ」、「読みたいくなる広報誌」となるよう内容について検討し、改善する。それにより閲覧者や購入者の増加を目指す。
- (2)各種目メディアに対しては、選手や大会に関する事前の情報提供を徹底して行い、新聞や雑誌、テレビ等で取り上げてもらえるように活動の充実を図る。
- (3)全日本選手権大会のNHKテレビ放送を継続する。
- (4)メディアへの各種大会等の結果連絡については、結果のみならず、話題性の高い内容のコメントを加えて提供する。
- (5)各年度の主要大会(当連盟主催・共催大会等)の大会記録およびランキングを冊子にまとめた大会記録集は、デジタル化を含め効果ある記録集の作成を目指す。ソフトテニスの歌については、日本連盟主催事業での活用と全国各地域での普及を図る。
- (6)日本ソフトテニス連盟及び47各都道府県連盟ホームページテレビ局では、過去の当連盟主催大会の映像を、いつでも見られる等の動画サイトの内容の充実を図り、積極的な動画配信による広報活動を展開する。
6. 「ソフトテニスの表彰・顕彰」
7. 「ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定」
8. 「ソフトテニスの審判員資格認定」
9. 「ソフトテニスの用具・用品、施設認定」

II. ソフトテニスの競技力向上事業

＜真の世界No1を目指して＞

- 世界No1の実力を目指し、10年を経過した競技者育成プログラム(一貫指導システム)の見直しを図り、実行する。
- 医科学委員会との連携を強め、長期的展望に立った選手の発掘や競技力の向上を推進する。
- 指導者の資質と指導力の向上及び指導活動の促進を図ることを目的に、(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者養成事業や指導者研修事業を実施して、ソフトテニス競技の振興と競技力向上を担うための指導者を養成する。

1. 「ソフトテニスの競技力向上・医科学研究調査」
ソフトテニスの競技力向上のため「競技力向上」、「医科学研究調査」、「アンチ・ドーピング」を継続して行う。

(1)「競技力向上」

真の世界No1の実力を備えた選手が育成できるように、競技者の発掘・育成・強化の流れについて、過去10年間を検証し、競技者育成プログラムの見直しを行い、選手強化の推進を図る。

- 見直しに関しては、下記の観点を取り入れて行う。
- ①ソフトテニス競技をより魅力のあるスポーツに育て、競技を通じて青少年の健全育成に寄与する。
 - ②各カテゴリーの全日本チームや日本を代表するチームに所属する選手の競技力向上を目的とした合宿を実施する。
 - ③国際的に活躍できる選手の育成を目的として、上記2に示すチームに所属する選手等を各種国際大会へ派遣する。
 - ④各種国際大会においては、競技力向上のみならず、選手の間人性の向上に役立てるように、海外選手との交流、異文化の体験等も積極的に採り入れる。
 - ⑤強化選手の大会における状況や新たな有望選手の発掘を目的とし、指導スタッフを各種大会へ派遣(視察)をする。

(2)「医科学研究調査」

競技者の健全な心身育成のため、スポーツドクターやトレーナー等による合宿帯同や定期的チェックを実施する。各種フィットネスデータを集積・分析し、選手の身体ケア、健全な発達、適切なトレーニングに役立てる。また、コート等の施設・用具の特性を調査し、競技力向上との関連性の分析等研究成果を公開し、全国的な競技力向上に役立てる。

これらの活動は医科学委員会が中心となって推進するが、この他、同委員会においては、一般競技者の体力増強や巧緻性の向上、発育・発達状況に応じたソフトテニスの楽しみ方等について、医科学的観点からの情報提供等を行う。

(3)「アンチ・ドーピング」

日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と連携し、ドーピング防止の普及啓発活動を実施して、スポーツの公平性を競技者に理解させ健全な精神を育成するためにアンチ・ドーピング教育の充実を図る。

また、世界アンチ・ドーピング活動の動向を踏まえ、各種の大会等でのドーピング検査を実施し、全国を統括する競技団体としての責務を果たす。

2. 「ソフトテニスの指導者育成」

スポーツの振興と競技力向上を図るための指導者を養成するため「指導者養成事業」、「全国の小学生・中学生・高校生指導者の合同研修会」の実施を継続する。

ソフトテニス競技の振興と競技力向上にあたる指導者の資質と指導力の向上及びスポーツ指導活動の促進と指導体制の確立を図ることを目的に、(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者制度のソフトテニス専門科目養成事業の充実を図り実施する。「全国の小学生・中学生・高校生指導者の合同研修会」は、各都道府県連盟を代表する小学生・中学生・高校生の指導者各1名を一堂に会し、ジュニア層のソフトテニス活動における課題の改善について検討すること、また、競技者育成プログラムの現状を把握し、さらなる推進に向けて協議を行うことを目的に開催する。

III. ソフトテニスの国際振興事業

＜世界の街で ソフトテニス＞

国際事業推進においては、世界に広がり、オリンピック委員会と強く結びついているテニス競技の協力を得ながらオリンピック参加を目指すことを目標に各種事業等の推進にあたる。

1. 「ソフトテニスの国際振興」

ソフトテニスの世界的振興における中心的なリーダー国として「国際普及活動の推進」、「国際指導体制の充実」、「国際大会の開催促進」を推進するとともに、テニス競技団体との連携も深める。

(1)「国際普及活動の推進」

- ①海外への指導者、選手の派遣を行う。
- ②ソフトテニス用具・用品の支援をする。
- ③普及指導用教材の作成(DVD及び翻訳等)および提供を行う。
ア. ソフトテニス競技紹介用DVDおよびパンフレット
イ. 技術指導用DVD、審判技術用DVD、ルールブック
- ④ジュニア選手、シニア選手等の国際交流促進

(2)「国際指導体制の充実」

国際指導員制度(ASTF)及び国際審判員制度(ASTF)を推進する。それにより国際大会に審判員の派遣や未開発国等の指導者の派遣を実施する。

(3)「国際大会の開催促進」

- ①2021年日本で開催される「ワールドマスターズ ソフトテニス」大会への準備体制の確立・活動を行い、大会の成功を目指す。
- ②アジア競技大会へのソフトテニスの参加活動と世界選手権大会、アジア選手権大会の開催および大会運営を支援する。
- ③世界各国で開催される国際大会を支援すると共にオリンピック委員会が認める大陸別、地区別競技大会参加に向けての活動と大会運営支援を行う。

以上のソフトテニスの普及振興事業を推進するために

組織、財政の強化

＜新しい時代への力を創る＞

- 1 平成11年に会員登録制度が制定されてから20年近く、また小・中学生の会員登録有料化から10年以上が経過し、組織、財政の強化が着実に進められてきた。更なる組織、財政の強化に向けてソフトテニス愛好者増加の取り組みを全国各地で積極的に推進し、登録会員の増加を図るとともに財源確保に向けた新たなシステムの検討を実施する。

平成29年度事業計画 (平成29年4月1日～30年3月31日)

I. ソフトテニスの普及振興事業

- ソフトテニス競技規則の制定
- 全日本ソフトテニス選手権大会等開催
 - 国内競技会を大会実施要項に基づき実施する。
 - 大会の検討と大会運営の改善
 - シニア45男女の全日本社会人選手権大会への移行を検討
 - 新規全日本大会の検討
 - 全日本団体選手権大会、全日本混合ダブルス選手権大会を実施する方向で検討。
 - JOCジュニアオリンピックカップ大会/全日本ジュニア選手権大会・ダブルスとシングルスを実施する。
 - 全日本シングルス選手権大会・シングルス種別を中心とした参加枠に変更し、実施する。
 - 日本スポーツマスターズの充実
 - 大会参加申込のシステム化
 - 主催大会開催地への支援
 - 競技、審判、広報等大会運営マニュアルの活用
 - ゼッケンの着用
 - 簡易得点板の設置
 - 大会審判のワッペン着用義務化
- 地域ソフトテニス大会支援
 - 地域等における競技会開催に、次のとおり補助を継続して行う。
 - 9地区選手権大会・9地区×200,000円を助成する。
 - 地区高校選抜大会・9地区×100,000円を助成する。
 - 9地区中学選手権大会・9地区×100,000円を助成する。
 - 全日本シニア東西対抗大会・400,000円を助成する。
 - 全日本学生同好会大会・200,000円を助成する。
- 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援
 - 地域グループ育成のため、次の事業を実施する。
 - 地域クラブ・ジュニアクラブ等の育成
 - 支部小学生大会への補助・47支部×@30,000円を助成する。
 - 支部中学生大会への補助・47支部×@30,000円を助成する。
 - ソフトテニス週間の実施
 - ソフトテニス愛好者増加対策
 - 指導者バンク(地域)の活用促進
 - 総合型地域スポーツクラブの研究
 - 傷害補償制度の徹底
 - ソフトテニスの広報活動
 - メディア対策
 - ホームページの運営
 - 広報誌発行
 - ソフトテニスの歌の活用
 - ソフトテニスのアピールと周知
 - 2015年に上映した映画「案山子とラケット」の今後の活用(公民館等を利用した地域毎の上映、国際普及のための海外版作成等)を検討、実施していく。
 - 漫画及び指導教本(DVD BOOK)についても、販売状況をフォローアップの上、さらに多くの読者に行きわたるよう創意工夫し、実行していく。
 - 引続き当連盟のキャラクターである「そふていー」を種各大会・イベント等に登場させ、ソフトテニスを広くアピールする。
 - ソフトテニスの表彰・顕彰
 - 各種表彰を現行の表彰基準により次のとおり行う。
 - 国内関係表彰
 - 国際大会入賞
 - 特別功労者または団体
 - その他、特に必要と認められたもの
 - ランキング選手表彰基準の見直しを行う。
- ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定
 - ソフトテニスを愛好する者に自己の実力を確かめ、さらに技術を向上するための目標を与えることを目的として、技術等級制度規程に基づき、次の事業を実施する。
 - 名誉指導員の認定
 - 技術等級の認定(大会実績、検定会)
 - 技術等級システムの活用と大会参加資格チェック技術等級システムを活用して認定手続きと資格管理の効率化の推進、また大会申し込みシステムとの連動により大会参加の資格をチェックする。
 - 技術等級制度自体の周知を図る。
- ソフトテニスの審判員資格認定
 - 公認審判員規程に基づき、次の事業を実施する。
 - マスターレフェリーの認定(50歳以上)
 - マスターアンパイヤーの認定(50歳以上)
 - 1級審判員の認定(新規、更新)、及び検定会・研修会の実施
 - 2級審判員の認定(新規、更新、ジュニア審判員からの移行)
 - ジュニア審判員の認定
 - 2級審判員研修資料の提供
 - 審判検定会・研修会での資料(パワーポイント)を活用し、講習内容の統一と審判員のさらなる資質向上を図る。
 - 審判員バンクの創設及び派遣審判員の実施
 - 審判技術DVDの活用
 - ジュニア審判員普及の促進
 - 競技規則等の見直し
 - 審判システムの活用と大会参加資格チェック

II. ソフトテニスの競技力向上事業

- ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査
 - 競技力向上
 - 世界No1を目指した競技力向上に関し、次の事業を実施する。
 - 競技者育成プログラムの推進
 - 日本代表候補チームの強化合宿
 - ナショナルチームの強化合宿
 - 全日本U-14、U-17、U-20の強化合宿
 - 競技力向上のための海外遠征
 - 強化スタッフの各種大会視察
 - 競技力向上のための調査・研究
 - 医科学サポートの推進
 - 競技者の資質向上のため、競技規則、審判規則、マナー等に関する研修会の実施を検討。
 - 医科学研究調査
 - 競技力向上を図るため、以下の活動を行う。
 - 各種フィットネスデータを分析し、強化チームにフィードバックする
 - 国内大会での撮影および映像分析、国際大会における戦術分析
 - 強化チームの合宿及び海外派遣等に帯同し、各種分析およびフィードバックを行う
 - 国内大会でのトレーナープールの設営
 - 栄養調査・分析・指導
 - 医科学研究報告書の作成・発行
 - 国立スポーツ科学センターの活用
 - アンチ・ドーピング
 - アンチ・ドーピングに関する教育・啓発活動(公財)日本アンチ・ドーピング機構と連携して以下の活動を行う。
 - ホームページや大会要項等の情報掲載
 - 中学・高校・大学の選手への教育の実施
 - 教材の考案および作成
 - 日本アンチ・ドーピング機構のアウト・リーチ活動(アンチ・ドーピングについての分かりやすい説明のための広報活動)の受入と実施
 - 強化合宿、研修会等で強化選手への教育の実施
 - 指導者や家族へのアンチ・ドーピング教育の検討
 - 国内大会におけるドーピング検査の実施

- 国際連盟およびアジア連盟と連携してのアンチ・ドーピング活動を推進
- ソフトテニスの指導者育成
 - 指導者養成
 - 指導者養成事業の推進
 - 全国小学生・中学生・高校生指導者の合同研修会
 - 指導者バンク(日本連盟)の推進、活用
 - 指導者バンク(地域)の活用推進

III. ソフトテニスの国際振興事業

- ソフトテニスの国際振興
 - 国際普及活動の推進
 - 国際組織(ISTF、ASTF)内での指導の立場に基づく国際性の向上
 - 普及対象国への指導者、選手の派遣および選手、指導者を日本での研修受入れ
 - ジュニア、シニア等の交流促進
 - 国際競技規則の整合性の検討
 - 用具の提供、流通の促進
 - 普及指導用諸教材を活用して、普及活動を促進
 - 国際普及親善活動に結びつき、支部活動に対する「国際親善大会補助費」の助成
 - 国際指導体制、審判体制等の充実
 - 国際指導員制度(ASTF)の推進
 - 国際審判員制度(ASTF)の推進
 - ISTF、ASTFのアンチ・ドーピング活動の推進
 - 国際大会の開催促進
 - 第1回東アジアユース大会(2019年)開催の中華台北への支援
 - 第18回アジア競技大会(2018年 インドネシア)への準備活動
 - 海外の国際大会への積極的参加及び加盟国への参加要請
 - その他国際大会への支援
 - 関西ワールドマスターズ運営準備(W/組織委員会)
 - 国際組織(ISTF、ASTF)への活動
 - 加盟各国の協力体制、財政基盤の確立、組織運営の検討
 - ISTFの課題や運営面について、日本の考えや立場の意見統一
 - シニゲームなど国際大会参加に向けての積極的な活動および支援
 - 国際ルール改訂に向けての検証と実施
 - 国際版ホームページの活用と推進

【各事業を推進するための組織と財政の強化、共通施策】

I. 組織と財政の強化を推進する。

- 公益財団法人としての高い社会的信用を維持し、公益目的事業を行うために、環境と教育に取り組む。
 - ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレイの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図っていく。「環境宣言[来た時よりも美しく] フェアプレイ宣言[ありがとう あなたの笑顔とそのマナー]」の横断幕の日本連盟主催大会会場および各支部大会での掲示やプログラムへの掲載を行い、環境とマナーの向上を図る。
 - 大会や強化事業を実施する際にごみの分別等を行うなど、スポーツ活動を通して環境保全を図り、スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進するための物を大切にすると生活習慣の徹底
 - スポーツマンとしての倫理教育、青少年の健全育成の推進
 - *試合終了後の握手の励行を更に徹底推進する。
 - *ワッペン着用、審判をする時の姿勢・態度等、審判員のマナーの向上を図る。
 - *フェアプレイで日本を元気に「フェアプレイ宣言」キャンペーン活動の継続推進。
 - *マナーキッズプロジェクト(NPO)と連動し、ショートテニスを通じて日本の伝統的な礼法を体験させ、<体・徳・知>バランスのよい子供を育てる。
 - *マナーBOOKを配布しPRしていく。
 - *マナーチェックシートを活用し、実態調査と指導を引き続き行っていく。
 - 暴力根絶の徹底
- 会員登録制度の推進を図る。
 - 会員登録制度の定着および充実
 - 会員登録手続きの効率化
 - 会員報の発行
 - 登録状況の把握と改善
- 長期基本計画2017(平成29年度～33年度)をスタートさせ、着実に計画を推進する。
 - 東京オリンピックを見据え、ソフトテニスの国際普及・振興を図るため、長期的展望に立った長期計画を新たに策定し、2020年を良い機会として捉え、ジュニアからシニアまでを対象とした大会を開催し、真に競技スポーツと生涯スポーツを併せ持つソフトテニスの祭典として日本での実現を目指す。またオリンピック参加の足掛かりとなる活動も総力をあげ、積極的に展開する。

平成29年度収支予算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

単位：千円		科 目	予算額
		科 目	予算額
I 事業活動収支の部		13.親善大会費	1,400
1. 事業活動収入		14.普及指導費	17,000
(1) 基本財産運用収入		15.普及用具、教材費	3,500
1. 基本財産運用収入		16.国際大会派遣費	3,900
(2) 会費収入		17.傷害補償金	2,000
1. 支部分担金		18.免税手数料	15
2. 会員登録料		(2) 管理費支出	116,581
3. 維持会費		1. 人件費	39,329
(3) 事業収入		2. 会議費	14,900
1. 大会参加料		3. 会員登録関係費	26,500
2. 用具検定費		4. IT関係費	14,500
3. 機関誌関係費		5. 一般管理費	21,352
4. 技術等級認定料		(3) 加盟費支出	1,150
5. 公認審判員収入		1. 加盟費	1,150
6. 出版物収入		(4) 他会計への繰入金支出	0
(4) 補助金等収入		1. 一般会計	0
1. 補助金収入		2. 助成事業特別会計	0
2. 協賛金寄付金収入		3. 国際特別会計	0
1. 協賛金		4. 傷害補償制度特別会計	0
3. 免税募金		5. 募金会計	0
4. 071		(5) 国際大会積立金支出	21,500
1. 受取利息収入		1. 国際大会積立金支出	21,500
2. 広告料		事業活動支出計	581,838
3. 雑収入		事業活動収支差額	△ 15,307
(7) 他会計からの繰入金収入		II 投資活動収支の部	
1. 一般会計		1. 投資活動収入	
2. 募金会計		投資活動収入計	
事業活動収入計		0	
566,531		2. 投資活動支出	
2. 事業活動支出		(1) 職員退職積立金支出	
(1) 事業費支出		1. 職員退職積立金支出	
1. 大会開催関係費		2. 資産取得資金積立金支出	
2. 地域大会補助費		1. 資産取得資金積立金支出	
3. 地域グループ育成費		投資活動支出計	
4. 広報活動費		11,500	
5. 表彰費		投資活動収支差額	
6. 技術等級関係費		△ 11,500	
7. 公認審判関係費		III 財務活動収支の部	
8. 用具施設作成費		1. 財務活動収入	
9. 競技力向上費		財務活動収入計	
10. 指導者育成事業費		0	
11. 大会開催関係費		2. 財務活動支出	
12. 日本スポーツマスターズ参加支援費		財務活動支出計	
		財務活動収支差額	
		0	
		IV 予備費支出	
		22,724	
		当期収支差額	
		△ 49,531	
		前期繰越収支差額	
		49,531	
		次期繰越収支差額	
		0	

(注) 1. 借入金限度額 100,000千円

平成29年度 大会日程並びに開催地一覧

	大会名	開催地	日程	30年度
主催大会	第24回全日本シングルス選手権大会	香川県高松市	5月13日(土)・14日(日)	(北海道・東北)
	男子第62回・女子第61回 全日本実業団選手権大会	福井県福井市・越前市	7月28日(金)～30日(日)	茨城県北茨城市
	第34回全日本小学生選手権大会	滋賀県長浜市	7月27日(木)～30日(日)	愛媛県今治市
	第45回全日本社会人選手権大会	熊本県熊本市	9月2日(土)・3日(日)	静岡県静岡市他
	JOCジュニアオリンピックカップ大会 第24回全日本ジュニア選手権大会	広島県広島市	9月16日(土)・17日(日)	広島県広島市
	第21回全日本シニア選手権大会	石川県金沢市・小松市・能美市	9月29日(金)～10月1日(日)	(九州)
	第72回天皇賜杯・皇后賜杯 全日本選手権大会	群馬県前橋市	10月20日(金)～22日(日)	(九州)
	第31回日本実業団リーグ	広島県広島市	10月27日(金)～29日(日)	京都府福知山市
	第24回全日本クラブ選手権大会	千葉県白子町	10月28日(土)・29日(日)	千葉県白子町
	第35回日本リーグ	愛知県豊田市	12月15日(金)～17日(日)	愛知県豊田市
	第63回全日本インドア選手権大会	大阪府大阪市	30年 2月4日(日)	大阪府大阪市
	日本リーグ入替戦	愛知県名古屋市	30年 2月10日(土)・11日(日)	愛知県名古屋市
拠点事業	第12回ジュニアジャパンカップ 「競技者育成プログラム(Step-4)」	宮城県宮崎市	11月24日(金)～27日(月)	宮城県宮崎市
	第29回都道府県対抗全日本中学生大会	三重県伊勢市	30年 3月26日(月)～28日(水)	三重県伊勢市
	第17回全国小学生大会	千葉県白子町	30年 3月29日(木)～31日(土)	千葉県白子町
共催大会	第46回ハイスクールジャパンカップ	北海道札幌市	6月21日(水)～25日(日)	北海道札幌市
	西日本シニア選手権大会	鳥取県鳥取市	6月24日(土)・25日(日)	
	第72回東日本選手権大会	福島県福島市・会津若松市	7月15日(土)・16日(日)	
	第71回西日本選手権大会	鳥根県松江市他	7月15日(土)・16日(日)	
	全日本高校選手権大会(男子)	福島県会津若松市	7月22日(土)～25日(火)	
	全日本高校選手権大会(女子)	福島県会津若松市	7月26日(水)～29日(土)	
	第44回全日本レディース大会(個人戦)	愛知県名古屋市他	8月1日(火)～3日(木)	和歌山県和歌山市他
	全日本学生選手権大会	石川県七尾市・能都町	8月4日(金)～10日(木)	
	第48回全国中学校大会	長崎県長崎市	8月18日(金)～20日(日)	
	第39回全日本レディース決勝大会(団体戦)	宮城県仙台市	8月25日(金)～27日(日)	宮城県仙台市
	日本スポーツマスターズ2017	兵庫県神戸市	9月16日(土)～17日(日)	北海道札幌市
第72回 国民体育大会	愛媛県今治市・大洲市	10月6日(金)～9日(月)	福井県越前市・福井市	
第43回全日本高校選抜大会	愛知県名古屋市	30年 3月28日(水)～30日(金)	愛知県名古屋市	
国際	第25回日・韓・中ジュニア交流競技大会	日本 茨城県	8月23日(水)～29日(火)	
その他	第30回ねりんピック2017	秋田県大館市	9月9日(土)～11日(月)	富山県

平成28年度日本スポーツ振興センター助成事業一覧

下記の事業については、独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受けて実施いたします。

基金助成		くじ助成	
事業名	助成額(内示)	事業名	助成額(内示)
JOCジュニアオリンピックカップ大会/ 全日本ジュニア選手権	1,399,000	競技者育成プログラム(Step-1～Step-3)	48,720,000
天皇杯皇后杯全日本選手権	2,785,000	ドーピング検査	6,252,000
全国小学生・中学生・高校生指導者研修会	1,451,000		
計	5,635,000	計	54,972,000



スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

スポーツくじ



平成28年度日本オリンピック委員会補助事業一覧

下記の事業については、公益財団法人日本オリンピック委員会の補助を受けて実施いたします。

事業名	補助額(内示)
選手強化事業	14,223,000